①ツアーの各場面に関するポイント

ア）ツアーの行程・内容

いつまでも心に残るような「メッセージ」や「テーマ」を伝えられると、満足度はさらに高まり、思い出深いツアーとなります。「メッセージ」や「テーマ」とは、ツアーを通して伝えたいこと。ツアーの冒頭でメッセージに近づくための簡潔な問い（例:「どうして･･･はこうなったのか?（前掲）」など）を投げかけると、参加者の問題意識が明確になります。その問いへの回答に向けて、解説の内容を組み立てていくことがストーリーづくりです。ツアーの行程は、メッセージを具現化する過程であることを意識します。単純に、行程に沿って現れる資源を順番どおりに解説してつないでいくよりも、「次はどうなるのだろう」と思わせるようなストーリー展開を作り、これに沿って解説対象をつないでいくと良いでしょう。

■満足度を高めるポイント

❖勝沼のブドウ畑をはじめとした甲州街道の歴史的景観を伝えるために、まずは高台にある釈迦堂遺跡博物館よりこれから訪れる場所の地形を俯瞰した。その後、主立った箇所で地形について解説することで、勝沼でブドウ栽培が盛んになっていった過程に対する理解が深まった。笛吹川のほとりから甲府盆地を形成している山々、扇状地や河岸段丘を眺めることによって、地形の特徴を復習できた。A2

甲州街道：釈迦堂遺跡博物館から甲州街道の道筋を俯瞰する

❖上野原駅を起点としたツアーで、甲州街道の山梨県側の起点を訪れる際に、あえて遠回りして、神奈川県側から甲州街道を通って山梨県に入るコースを設定し、番所を通る臨場感、これから甲州街道を巡るツアーが始まるという実感を創出した。A3

❖御師町ガイドでは、詳しい解説を聞きながら楽しく御師町を歩くことができた。この距離をまったく長く感じなかったといった声も多数聞かれた。一人では気付けないようなところに面白さを見つけられるのは、まちあるきガイドの醍醐味である。B

❖殿様や武士ではなく庶民の文化をたどる道という印象で新しい視点で楽しかった。C

❖棒道では、石仏、湧水、神社、山々など、周囲にあるものを見て回りながら、八ヶ岳南麓の歴史と暮らしに関する解説を積み上げることにより、テーマや感じて欲しいことが伝わったと思う。八ヶ岳を背に右手に甲斐駒ヶ岳、正面には里山の向こうに甲府盆地、そして富士山を眺める雄大な景観の中で、往時の人々が日々を暮らしたことを想像できた（観光では視覚から入る情報が最も人の心に届きやすく、感動を呼ぶといわれています）。D

■気を付けるべきポイント

❖笹子峠をひとりで越えるのは難しいが、ツアーではガイドがいることにより安心感があった。また、険しい箇所を「登りたくない」「登るのが不安だ」という参加者のために笹子隧道を通る別ルートを用意していたことにより、全参加者が安全に笹子峠を体感することができた。A1

❖どのような順序で訪れるかは重要。ミュージアム都留で全体的な説明や江戸時代の郡内織を見た後に、商家資料館で当時に思いを馳せ、その後に、現在の実業（武藤・光織物）を見るという順番は、ハタオリの道を理解するのに役立った。その一方で、エリアを絞って、更に深く掘り下げながら巡ることもしてみたい。B

冨士道：商家資料館の見学

❖秩父往還のツアーでは60歳以上の参加者が8割を占めたが、コース設定上、急な坂道や階段の昇降が発生するのは避けがたい場面があった。ツアー募集時には、道ごとの特徴に応じて移動時に障壁となり得る箇所を細やかに知らせておくことで、現地に到着してからの歩行断念等による満足度の低下を軽減することができる。そのためにも事前の丹念な下見が非常に大切である。C

❖棒道は歩く距離の長いツアーだったが、疲れてくる後半はおおむね下り基調で楽だった、反対の場合は大変だっただろうという声が聞かれた。また、山道もあり一部上りの箇所もあったが、バス移動ではなく自分の足で歩けて良かった、ガイドツアー故に、通常時より少し冒険的なことにも取り組むことができ、満足感が高まった、という声もあった。ストーリーに沿った展開に加えて、安全・安心で、参加者の体力・技量を気にかけたコース取りが大切である。D

棒道：後半には下り基調の道が続く

❖みのぶ道では、道としてのテーマ・ストーリー性を重視し、当初全ての道を歩くことを目指したが、時期や2泊～3泊で歩く体力的に厳しい行程になることを考慮して、実際にはロープウェイやタクシーを利用した。ポイントとなる場所を辿り、丁寧な解説があることで、参加者の満足度を高めつつ、テーマ・ストーリー性を伝えることができた。E

❖歴史の道ツーリズムでは、ストーリーに沿った丁寧な解説は欠かせないが、旅行商品としての完成度を上げるためには、現場でのタイムマネジメントと往訪資源や解説内容の厳選が必要。参加者が解説で得た知識や資源の魅力を咀嚼するための余白を設けることで、歴史の道や個別資源に対する理解が深まり、ツアーにおける満足度の向上も期待できる。また、全てを詰め込まないであえて余白を残すことで、「また来たい」と思わせることができ、リピートにつながる。共通

❖SITの参加者には高齢の方も多いため、トイレの確認は万全にすべきであり、経験上、とりわけ午前中には複数箇所予定することが必要である。共通

❖訪問先の建物への昇降、境内傾斜地の上り下りなどが発生する状況では、ツアーの隊列が長く伸びがちだった。次のポイントへの到着が遅れて解説を聞き逃したり、他の参加者を待たせているといった心理的負担を与える可能性がある。タイムスケジュールに猶予を設ける、ツアーの先頭だけでなく複数の係員を配置する等、ゆっくり進むことを許容する雰囲気を醸成するための工夫が必要な場合がある。共通

❖寺社仏閣や資料館等で靴の脱ぎ履きが発生するのであれば、事前の告知がほしいという声が聞かれた。年配の参加割合が高くなることが想定される場合、しゃがむ・かがむといった動作の発生個所に留意が必要。共通